

鉄と鋼

Journal of The Iron and Steel Institute of Japan

主　要　目　次

正則溶液モデルを基礎とした 2 乗形式による製鋼過程での スラグ-メタル間平衡反応式の定式化	1701
表示材料の最近の開発状況	1712
アモルファス鉄心変圧器の実用化	1721
米国における複合材料の現状と動向	1727
高炉内装人物の運動に関する理論解析と冷間模型実験	1734
高炉へのオイルコークス・重油スラリーの均等吹込み	1742
高炉レースウェイ内におけるオイルコークス・重油スラリーの 燃焼性	1750
剛体球模型および Pseudopotential による鉄合金溶液の 相互作用パラメーターの推算	1758
MgO 飽和 $Fe_3O_4-SiO_2-NbO_x-MnO$ 系スラグ-溶鉄間の Nb, P, Mn の分配	1765
$Fe_3O_4-(CaO+MgO)-(SiO_2+P_2O_5)$ 系りん酸塩スラグと溶鉄間の りん分配平衡	1770
ソーダ系フラックスによる高マンガン溶鉄の脱りん	1778
底吹き円筒浴内の水噴流および水-空気系気泡噴流の流動特性	1785
水平式薄板電磁鋳造とその安定性の解析	1793
製鋼用酸素センサーの使用実績から見た製鋼技術の変遷	1801
TFP (Trimming Free Plate) 製造技術の開発	1809
熱間圧延用平坦度計の実用化	1817
レール鋼の繰返し打撃による塑性変形挙動	1824
Ti と炭素鋼の接合性と界面反応	1832
低炭素鋼のオーステナイト粒界に生成する初析フェライトの形態	1839
13 Cr-4 Ni 鋳鋼のオーステナイト域等温保持による脆化に及ぼす P 量の影響	1846
Ti-6 Al-4 V の低 ΔK 域における人工海水中疲れき裂伝播特性	1854
溶鉄中への吹込みによるダストの再利用の可能性	1862
パラ平衡とオルソ平衡	1865

NO.
VOL. 74
SEPT. 1988
9

社 法 団 人 日 本 鉄 鋼 協 会

The Iron and Steel Institute of Japan

Price:

¥ 2,700 per copy excl. postage

Keidanren Kaikan, 9-4, Otemachi-1-Chome
Chiyodaku, Tokyo, Japan